

E—29 「生活科学」の範囲・内容について
—家政学原論研究 III—

十文字学園女短大 原田 一

1. 大学・短大の一般教育科目として「生活科学」を置く学校や、家政学部の中の一学科として「生活科学科」をおく学校が少なくない。また最近「家政学」を改

めて「生活科学」あるいは「生活学」と称すべしという議論もある。そこで生活科学の範囲・内容を明らかにし、その成立の可能性を検討したいと思って本研究を企てた。

2. 生活、科学、生活科学の標題または内容を含む書籍・雑誌・論文をできるだけ多数集め、その内容を比較・検討した。

3. 「生活」には①衣・食・住その他身の生活の意味する場合、②人間が環境に対して反応するあらゆる行動や思考の緩和を意味する場合、③以上広狭二義の中間の各種の程度を意味する場合があり、「科学」には①自然科学系のみを意味する場合、②自然・人文・社会の各系の科学を意味する場合がある。したがって「生活科学」はすこぶる多義的で、最広義にとれば、ほとんどすべての科学を含み、比較的狭くとも、衛生学、社会福祉、心理学、工学、農学等の広分野にわたった内容を含んでいる。独立科学の資格が特定の研究対象・研究方法を必要とするならば生活科学は独立科学としての資格を欠く。一方生活科学の伝統的内容は、衣・食・住・育児等の身の生活の理科的考察を含むものであるから、生活科学は一個の授業科目の名称と考えるべきである。家政学を生活科学と改称しようとするのは暴論というべきである。